

普及活動情勢報告（令和元年10月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

四方竹の出荷が始まりました ～加工改善に向けての状況調査を実施中～



加工工程を確認

高知市の中山間地域では、10月から四方竹が加工出荷されています。普及所は、七ツ渕筋加工組合と連携し、加工の改善に向けて取り組んでいます。

生産状況の聞き取りを行い、加工状況を調査し、歩留まりを低下させる要因の究明と解消を目指しています。生産者からは、「大きい規格のものにハネ品が多い」「加工時の温度・時間が問題では」という意見も出されました。

普及所は、こうした地域の特産品による所得向上を図るため、引き続き支援を行います。

秋の気配が・・・ ～ナシの収穫の時期がやって来ました～



ナシ食味会

9月26日、高知市針木で針木梨生産組合による新高梨の食味会及び出荷目慣らし会が開催され、生産者、市場関係、関係各機関、報道陣等約80名が参加しました。

普及所は、生産者から持ち込まれた32点の新高ナシの糖度、外観、果肉等の果実を分析し、品質は平年並みであることを確認しました。また、市場関係者ら8名による食味検査を行い、熟度や食味値についても平年並みとなりました。これらの結果から、出荷は9月27日からの決定しました。

普及所では、今後も病虫害防除やせん定、高温対策などの指導を行い、針木梨生産組合を支援していきます。

ユズ産地の活力維持のために ～土佐山柚子生産組合の中央研修会～



アシストスーツ着用の
デモンストレーション

9月25日、土佐山柚子生産組合の中央研修会が開催され、生産者ら40人が参加し、スマート農業や病虫害情報などについて研修しました。

スマート農業では、ICT等を活用した果樹生産、ドローンによる病虫害防除、アシストスーツによる労力軽減技術などを研修しました。アシストスーツでは生産者が実際に着用し、重量物の持ち上げを体験しました。また、果樹試験場から、青果出荷果実に発症する「えくぼ症」の発生原因と対策を発表し、生産者と活発に意見交換しました。普及所は、これらの研修内容を決定するなど開催を支援しました。

普及所では、ユズの収穫期に向け、ドローンによる収量予測調査等を行うなど、土佐山柚子生産組合を支援していきます。

「良い農業」とは何でしょう？ ～JA 高知県春野 GAP 勉強会～



GAP＝「良い農業の取組」です！

9月30日、JA高知県春野営農経済センターでGAP勉強会が開催され、生産者5名が参加しました。春野地区での生産者向けの高知県版ガイドライン準拠GAPの勉強会は初めてで、普及所からGAPの基礎から取組事例、出荷場での取組状況等について幅広く説明しました。参加者からは、高齢になると取り組みづらい、農薬の空容器の処理はどのように処分すれば良いのかなど、様々な意見を聞くことができました。

普及所は、今回頂いた意見を参考に、今後もGAPの普及による産地の強化を支援します。

令和元年産の早期稲の出来は？ -JA 高知市稲作部大津支所出荷反省会-



来年はどうしようかな？

10月19日、JA高知市大津支所において稲作部の出荷反省会が開催され、28名の農家が参加しました。JA等関係機関から今作の検査結果や米穀情勢の説明があり、普及所からは、生育概況とよさ恋美人の試験結果について報告しました。今年度は悪天候による登熟不良やカメムシ類による斑点米の多発生により、管内の1等米比率は13%と厳しい年になりました。参加者からは効果的な農薬の散布時期や来年のよさ恋美人の苗に関する質問があり、早くも来年の計画を検討していました。

普及所では、今後もニーズに応じた米産地の振興に取り組んでいきます。

鏡むらの店チーム会 ～野菜・果物の出荷の下支えに向けて～



直販所チーム会の様子

直販店「鏡むらの店」万々店の組合役員、高知市鏡地域振興課と販売額向上のためのチーム会を10月8日に開催しました。毎回行っているPOS分析による検討とともに、9月に実施した栽培講習会の振り返りを行いました。栽培講習会で行った重点品目栽培促進のための種子の配布では、配布方法やセルトレイ苗の注文体制、栽培講習会の持ち方について課題が残りました。また、栽培履歴の簡素化のため、様式の見直しを行いました。

今後は、直販所活性化セミナーでいただいた助言を基に、野菜や果物の安定した品揃えに向け支援します。